

## 第2学年＊組 国語科学習指導案

活動場所 国語科教室，国語メディア

指導者（T1） 井上 秀次

（T2） 播田實 竜大

国語科における テーマ	話し合い活動を通して，自分の考えを広げ，深める指導の工夫
----------------	------------------------------

1 単元名 自分の考えが広く社会に伝わるように，文章の構成を工夫して書こう-少年の主張〇〇中大会-

### 2 単元について

本単元では，言語活動として「社会生活の中で感じたことや考えていることを広く社会に伝えるために，文章の構成を工夫して主張文にまとめる」ことを位置付けた。説得力のある主張文にするためには，題材に関する興味・関心等を醸成しながら目的意識や相手意識を明確にし，書くことの必然性を高めていくことが必要である。また，自分とは異なる考えをもった相手がいることも想定するなど，より広い視野に立って主張文を書くことは，相手に自分の考えを効果的に伝えることができる文章の構成や段落の展開について考えを深める上で重要である。したがって，本単元でねらう「目的や意図に応じて，社会生活の中から題材を決め，多様な方法で集めた材料を整理し，伝えたいことを明確にすること。」（B書くことア）及び「伝えたいことが分かりやすく伝わるように，段落相互の関係などを明確にし，文章の構成や展開を工夫すること。」（B書くことイ）を実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。

本学級の生徒は，昨年度の「書くこと」の学習において，二項対立のテーマについて根拠を明確にして意見文を書く活動に取り組んだ。その結果，自分の立場や考えを明らかにし，段落の役割を考えて文章を構成することができるようになった。一方で，考えの根拠となる事実や事柄の扱い方については，多面的な視点で捉えたり，重要な部分を引用したりするという点で課題が見られた。これまでの「書くこと」の学習では，書く内容の中心が明確になるように，段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることに重点を置いた指導を行ってきたが，これからは，収集した情報を観点に沿って比較，分類，関係付けなどをしながら根拠としての信頼性や妥当性を高めることができる能力を育成するための指導を行う必要があると考え，本言語活動を位置付けた。

単元の導入場面においては，前年度の「少年の主張大会」の映像や入賞者の主張文を提示する。この手立てにより，主張文を書く活動への意欲を高めるとともに，主張文にまとめるまでの学習過程や，ここで身に付けていく能力について見通しをもたせられるようにする。（課題との対話）次に，主張文を通して広く社会に伝えたい内容について明確にするために，テレビや新聞，インターネットなどで報道されている社会の様々な出来事の中から関心度の高いものを選択し，タブレットPCのカメラ機能やスクリーンショット機能を活用して「電子スクラップ」として保存する。その際，論理的思考・表現のツールである，「三角ロジック」を基にしたワークシートを活用し，伝えたい内容を，根拠・理由・主張の三つの要素に整理する。そして，収集した電子スクラップと三角ロジックのワークシートを基に，説得力のある主張文になり得るかどうか，グループで検討する。題材とする内容が同じ生徒同士の交流と，異なる生徒同士の交流とを2段階で設定することで，収集した情報の信頼性や妥当性，論証の方向性について，多面的・多角的な視点から考えることができるようにする（仲間との対話）。続く，構成の検討の段階では，構想を可視化する「文章構成作戦板」を活用し，目的や意図に沿うように文章の構成を工夫して書く活動を行う。考えの形成，推敲の段階では，より分かりやすい語句を選択しながら書くことができるように，「語句変換シート」を活用する。最後に，共有の段階として「少年の主張〇〇中大会」を開催し，収集した情報の活用の仕方や文章の構成の工夫等の観点から，グループで主張文の相互評価を行う。ここでは，本単元で身に付けた能力を日常生活や社会生活で活用する場面についても想起できるようにする（自分との対話）。このように，社会生活の中で感じたことや考えていることを広く社会に伝えるために，文章の構成を工夫して主張文にまとめることは，話し合い活動を通して，自分の考えを広げ，深める指導の工夫というテーマを具現化した有効な言語活動であると考え，本単元を設定した。

### 3 単元の目標

- 読み手に自分の考えやその根拠などを効果的に伝えるための文章の構成や展開について、理解を深めることができる。(知識及び技能)
- 自分の考えが広く社会に伝わるように、段落相互の関係を明確にし、文章の構成や展開を工夫して書くことができる。(思考力、判断力、表現力等)
- 社会生活の中の事柄やその背景などに関心を持ち、客観的に分析して自分の考えを広げたり深めたりしようとする。(学びに向かう力、人間性等)

### 4 単元の指導計画と評価計画 (10時間扱い)

次	時	学習課題	評価規準・(評価方法)
一	1	自分の考えを広く社会に伝える文章を書くためには、どのような工夫が必要になるだろう。	[主体的に学習に取り組む態度] ・自分の考えが広く社会に伝わるように構成を工夫して主張文を書く方法について、見通しをもとうとしている。 (学習計画表の記述内容)
二	1	社会生活の中で関心度の高い事柄について、タブレットPCを活用して「電子スクラップ」として収集しよう。	[主体的に学習に取り組む態度] ・社会生活の中の事柄やその背景などに関心を持ち、客観的に分析して自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。 (電子スクラップの収集状況)
	2	収集した情報を基に、主張文で伝えたい内容を「三角ロジック」の三つの要素(根拠・主張・理由)に整理してまとめよう。	[思考・判断・表現(書く能力)] ・収集した情報を基に、伝えたい内容を根拠・主張・理由の三つの要素に整理している。 (ワークシートの記述内容)
	3	電子スクラップと三角ロジックをお互いに比較し、説得力のある主張文にするための工夫について自分の考えをまとめよう。	[思考・判断・表現(書く能力)] ・収集した情報の信頼性や妥当性、論証の方向性など、主張文の説得力を高めるための工夫について自分の考えをもっている。 (交流の様子、ワークシートの記述内容)
	4	読み手に自分の考えやその根拠などを効果的に伝えるための文章の構成や展開について、「文章構成作戦板」にまとめよう。	[知識・技能] ・読み手に自分の考えやその根拠などを効果的に伝えるための文章の構成や展開について、理解を深めている。 (文章構成作戦板の内容)
	5	自分の考えが効果的に伝わるように、「語句変換シート」を活用してより分かりやすい	[思考・判断・表現(書く能力)]
	6	語句を選択したり、文章の構成や展開を工夫したりしながら主張文を書こう。	・自分の考えが効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、文章の構成や展開を工夫したりしながら主張文を書いている。 (主張文の内容)
	7	読み手の立場に立って主張文を読み返し、	[思考・判断・表現(書く能力)]
	8	より効果的な表現になるように文章を整えて書こう。	・読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整えている。 (交流の様子、主張文の内容)
三	1	「少年の主張〇〇中大会」を通してお互いの主張文の良さや改善点について交流し、文章の構成の効果について考えをまとめよう。	[主体的に学習に取り組む態度] ・文章の構成の工夫をどのように行うことができたか、また、学習したことをどのような場面で生かすことができるかについて、考えをもとうとしている。 (交流の様子、ノートの記述内容)

### 5 本時の学習

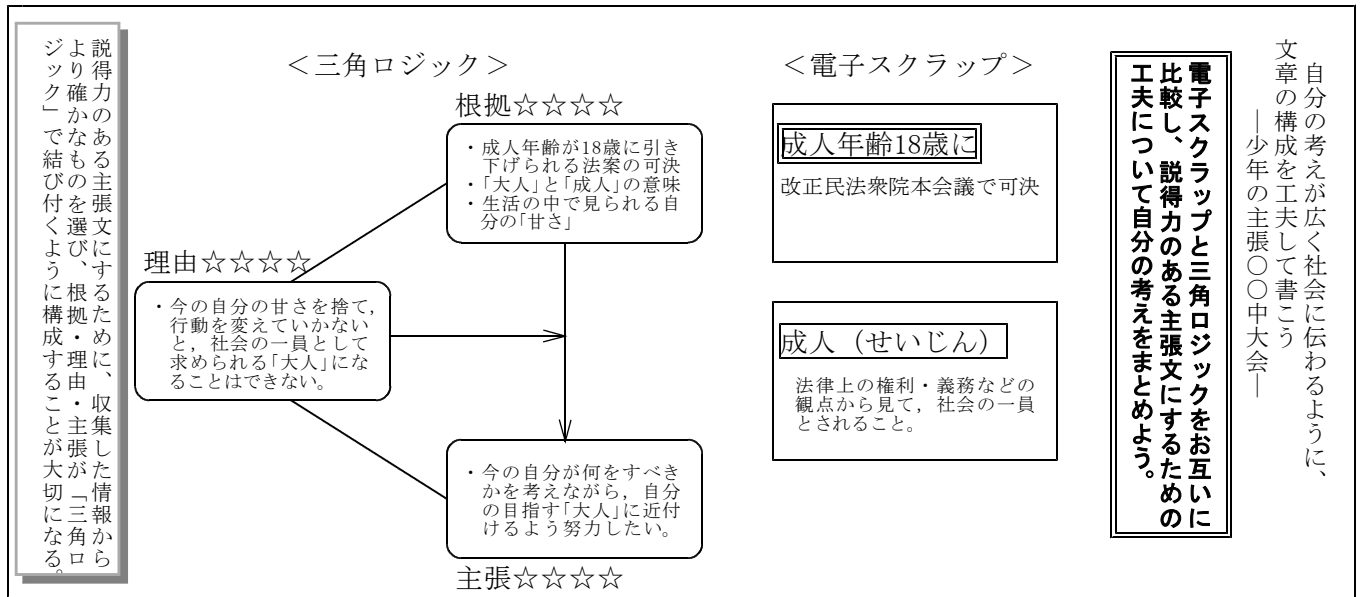
#### (1) 目標

電子スクラップと三角ロジックを互いに比較する活動を通して、収集した情報の信頼性や妥当性、論証の方向性など、主張文の説得力を高めるための工夫について自分の考えをもつことができる。

(2) 準備・資料

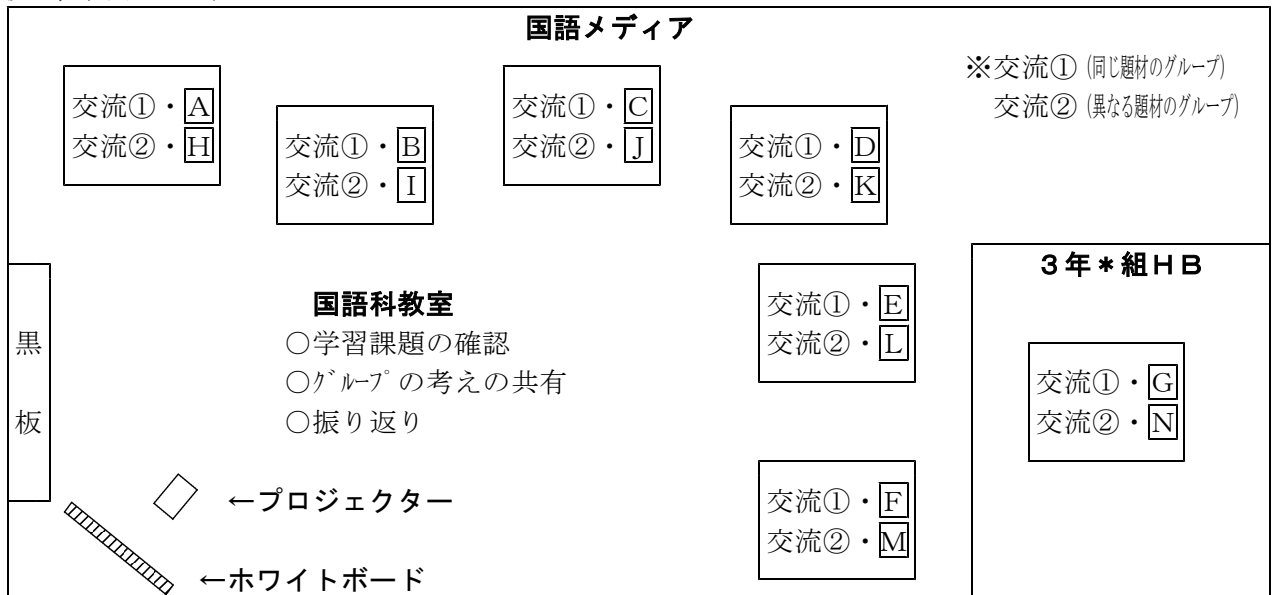
- ・タブレットPC ・三角ロジックのワークシート ・ホワイトボード ・プロジェクター

(3) 板書案



(4) 学習の場

- ・全体の学習…国語科教室
- ・電子スクラップ及び三角ロジックのワークシートを基にした2段階の交流…3年\*組HB, 国語科教室, 国語メディア



(5) 展開

学習活動 (予想される生徒の姿) ・内容	指導上の留意点と評価
<p>1 前時の活動を振り返る。</p> <p>2 本時の学習課題を確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>電子スクラップと三角ロジックをお互いに比較し、説得力のある主張文にするための工夫について自分の考えをまとめよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時までの言語活動及び身に付けた能力について振り返ることができるように、電子スクラップ及び三角ロジックのグッドモデルを拡大して提示しておく。</li> <li>・タイムプロットカードを黒板に掲示し、学習計画表と併せて確認することで、課題解決の道筋及び身に付ける能力について見通しをもてるようにする。</li> <li>・活動に円滑に取り組めるようにするために、交流①及び交流②の場の設定については、事前に行っておく。</li> </ul>

3 同じ題材のグループで電子スクラップと三角ロジックを互いに比較する。

(交流①)

(1) 電子スクラップと三角ロジックを使って、主張文の論証の方向性について説明する。

- ・テレビのニュースで報道されていた「成人年齢の引き下げ」について気になったので、関係のある情報をインターネットで探した。
- ・「大人になる」ために何がなか、自分の生活を見直して結論を出すことができた。

(2) 収集した情報の価値や論証の方向性の是非について意見を述べ合う。

- ・インターネットだけでなく、新聞やテレビでどのように報道されていたかについても調べておいた方がいい。
- ・「理由」の部分ががはっきりと書かれているから、この主張文を通して何を伝えたいのかがよく分かる。

4 異なる題材のグループで電子スクラップと三角ロジックを互いに比較する。

(交流②)

(1) 交流①で出された意見等を踏まえ、電子スクラップと三角ロジックを使って主張文の論証の方向性を説明する。

(2) 不特定の読み手を想定した「説得力を持たせるための工夫」について、グループの意見をまとめる。

- ・根拠として選んだ事柄について詳しく知らない人がいることも予想されるため、分かりやすい言葉を選んで説明する必要がある。
- ・自分とは反対の意見の人がいることも想定してそれに対する反論も「理由」の中で述べていかなければ、説得力は高くならない。

5 各グループに共通する、「説得力のある主張文にするための工夫」について全体でまとめる。

- ・収集した情報からより確かなものを選び、根拠・理由・主張が「三角ロジック」で結び付くように構成することが大切だ。

6 本時の学習課題について振り返る。

- ①言語活動を通して分かったこと、できるようになったこと
- ②交流で考えが広がったり深まったりしたこと
- ③次時で力を入れて取り組みたいこと

・交流①で使用する電子スクラップと三角ロジックについては並べて確認し合うことで、比較のための観点をより明確にできるようにする。

・電子スクラップのどの部分に着目すべきか確認し、信頼性や妥当性等を考える上での手掛かりとさせる。

・T1、T2がそれぞれ担当するグループを事前に決めておき、各グループの学習状況に応じた指導助言を効率よく行えるようにする。

・電子スクラップについては、どの部分に着目したのかが明確になるように、タブレットPCのペン機能で印を付けたり線を引いたりするよう指示する。

・三角ロジックについては、根拠・主張・理由それぞれの納得の度合いを4段階で相互評価することで、論証の方向性が正しいかどうか考えられるようにする。

・交流が円滑に進まないグループには、「理由」の部分に注目し、「根拠」と「主張」を結び付ける役割を果たしているかどうか考えるよう助言する。

・様々な相手を想定して主張文を書くことを確認し、説得力について広い視点から捉えられるようにする。

・電子スクラップとして収集された情報についても、より分かりやすい言葉を使って詳しく説明する必要があることを確認する。

・自分とは異なる意見をどのように受け止め、さらにとのように反論するかについて、三角ロジックの中である程度想定しておくよう助言する。

【思考・判断・表現（書く能力）】

- ・収集した情報の信頼性や妥当性、論証の方向性など、主張文の説得力を高めるための工夫について自分の考えをもっている。

(交流の様子、ワークシートの記述内容)

【努力を要する生徒への働きかけ】

- ・電子スクラップの情報や三角ロジックの三つの要素が不足している場合と比較してみるよう助言する。

・交流①、交流②を通して評価の高かった電子スクラップや、論証の方向性が明確な三角ロジックのワークシートを全員で確認することで、「説得力のある主張文にするための工夫」について共有できるようにする。

・まとめられた、「説得力のある主張文にするための工夫」については文章の構成や展開の工夫にもつながるという点を押さえ、次時の活動に生かせるうにする。

・「自分との対話」がより深まるよう、本時の学習課題について振り返るための観点を具体的に示す。

・次時の学習では考えやその根拠などを効果的に伝えるための構成や展開について文章構成作戦板にまとめることを伝え、見通しをもって臨めるようにする。